

令和6年度 第14回

風雅を楽しむ秋の集い

「鵬翔流吟友会・六六庵吟詠会高知県本部合同」

日時 令和6年10月6日(日) 午後1時 開演
会場 高知市南部健康福祉センター2F・Aホール
主催 鵬翔流吟友会

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひんに詩歌しにかを探さぐつて妙聲みょうせいを琢みがく

風雅ふうがの精神せいしん 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと

大会係り役員

大会 会長
大会 副会長
大会 副会長
大会 実行委員長
大会 事務局

会場準備

○ 笹岡 鵬俊
(屏風運搬)

横山 熙光
大野 正翔
西村 雄紫

受付案内

○ 中西 鵬篤
山村 彩光
福岡 眞起子
山本 昌代

感染症対策

○ 山村 彩光
川村 鵬泉

会費会計

○ 飯田 鵬祥

接待

○ 宝蔵 瑤光
森田 千鶴
宗光 竹枝

司会

○ 飯田 鵬祥
松木 鴻光
松代 怜翔
戸田 燁紫

会場進行

○ 笹岡 鵬俊
大野 正翔
村上 剛一
西村 雄紫

音響

○ 山中 鵬清
横山 熙光

記録広報

○ 大野 正翔
川添 鵬雄
戸田 燁紫

「風雅を楽しむ秋の集い」 式典

開式挨拶

鵬翔流吟友会理念朗読

鵬翔流吟友会会詩合吟

会長挨拶

来賓挨拶

笹岡 鵬俊
〈敬称略〉

飯田 鵬祥

中西 鵬篤

梶田 鵬翔

上本 竹永

西内 隆純

竹村 邦夫

近森 憲一

第一部

合吟

1 応制天の橋立

作者 釈 希 世

女 性

2 平泉懐古

作者 大槻盤溪

男 性

第二部

会員吟詠「風雅をつむぐ」

10	9	8	7	6	5	4	3
中秋の月	夫婦舟「伉儷」	汪倫に贈る	青葉の笛	江楼にて感を書す	山行	落花	石鎚山
作者	作者	作者	作者	作者	作者	作者	作者
蘇軾	飯田	李白	松口月城	趙嘏	杜牧	徳富蘇峰	海量法師
蒔絵台教室	南国教室	東雲教室	東雲教室	高須教室	宇佐教室	東雲教室	東雲教室
大野正翔	笹岡鵬俊	松木鴻光	宝蔵瑤光	山村彩光	西村雄紫	戸田燁紫	宝蔵正

第三部

日本の民謡と歌謡吟舞「日本のこころ」

11	廬山の瀑布を望む	作者	李 白	蒔絵台教室	松代 怜翔
12	九段の桜	作者	本宮 三香	栈橋教室	公文 鵬翠
13	楓橋夜泊	作者	張 繼	長浜教室	川村 鵬泉
14	大阪つばめ	作詞	吉岡 治	君 由美会	丸岡裕美子
15	女無法松	作詞	島田 邦博	君 由美会	楠瀬 妙子
16	山陽旅情	作詞	頼 山 陽	高 須 教室	横山 熙光
17	荒城の月	作詞	土井 晚翠	高 須 教室	飯田 鵬祥
18	あゝ西郷隆盛	作詞	丘 灯 至 夫	東 雲 教室	松木 鴻光
19	わが道	作詞	二木 葉子	水心流劍詩舞道 弘道館総師範 鵬翔流吟友会会長	梶田 鵬翔 北代 靈 豊

第四部

構成吟詠「いにしえの都を訪ねて」

20 和歌 いにしえの

作者 伊勢大輔

南国教室

山村彩光
飯田鵬祥

21 和歌 天野原ふりさけみれば

作者 阿倍仲麻呂

六六庵吟詠会

山本昌代

22 絶句 晁卿衡を哭す

作者 李白

南国教室

笹岡鵬俊

23 絶句 山の夜

作者 嵯峨天皇

東雲教室

宝蔵瑤光
戸田燁紫

24 歌謡吟詠 みれん宿

作者 わたなべけい

宇佐教室

中西鵬鶯

長浜教室

川村鵬泉

蒔絵台教室

松代怜翔

25 歌謡吟詠 空海

作詞 横井弘

高須教室

山中鵬清

第五部

来賓華麗なる吟と舞

「花の舞」

〈順不同〉

33	32	31	30	29	28	27	27	26
山	汪倫に贈る	寒梅	早に白帝城を発す	汪倫に贈る	由布院旅情	さざんかの宿	落城	風林火山
行								
作者	作者	作者	作者	作者	作者	作者	作者	作者
杜牧	李白	新島襄	李白	李白	岩佐多歌子	吉岡治	丘灯至夫	岩佐多歌子
					(舞)	(舞)	(舞)	(舞)
高知県漢詩連盟理事	六六庵吟詠会	六六庵吟詠会	六六庵吟詠会	六六庵吟詠会	水心流劍詩舞道 弘道館総師範	花柳流	土佐麗陽会	土佐麗陽会
内田紫紅	宗光竹枝	村上剛一	福岡眞起子	森田千鶴	中村靈節	中岡あき	竹内麗岱	中城麗抄

「吟情泉の如く」

34 二輪草

作詞

水木かおる

(舞)

君由美会

青木美和

35 浮世傘

作詞

井出博

(舞)

君由美会

楠瀬智恵子

第六部

明德義塾高校留学生による吟詠

明德義塾高等学校
日本クラブ詩吟部

36 富士山

作詞

石川丈山

鄭高範
皓芸羽
文耕軒
張曾
昕羽
桐嘉

第七部

役員・指導者吟詠

37 三樹の酒亭に遊ぶ

作詞

菊池溪琴

宇佐教室

中西鵬鶯

38 谷秦山先生を思う

作詞

梶田鵬翔

高須教室

川添鵬雄

第八部

会長・宗家 吟と舞

39 村 夜

作詞 白居易

高須教室

飯田鵬祥

40 涼州詞

作詞 王翰

高須教室

山中鵬清

42 焦心録語に題す

作詞 高杉晋作

鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

43 花街の母

作詞 もづ唱平 (舞)

花柳流

中岡あき

44 鳳 鳳

作詞 (舞)

土佐麗陽会 宗家

大崎麗蒼

45 絶句 (五言)

作者 杜甫 (舞)

水心流 劍詩舞道 弘道館 総師範

林 壺 南

46 早に白帝城を發す

作者 李白

六六庵吟詠会 高知県 本部 本部長

上本竹永

47 三百六十五歩のマーチ

作者 李白

六六庵吟詠会 高知県 本部 本部長

山中鵬清

閉会の挨拶

三百六十五歩のマーチ

(一)

幸せは歩いてこない だから歩いていくんだね
一日一歩三日で三歩 三歩進んで二歩下がる
人生はワンツーパーンチ 汗かきベソかき歩こうよ
あなたのつけた足跡にや 綺麗な花がさくでしょう
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ

(二)

幸せの扉は狭い だからしゃがんで通るのね
百日百歩千日千歩 ままになる日もならぬ日も
人生はワンツーパーンチ 明日の明日はまた明日
あなたは何時も新しい 希望の虹を抱いている
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ

(三)

幸せの隣にいても 分らない日もあるんだね
一年三百六十五日 一歩違いでにがしても
人生はワンツーパーンチ 歩みを止めずに夢みよう
千里の道も一歩から 始まる事を信じよう
腕を振って足をあげてワンツーパーンチ
休まないで歩け ソレワンツーパーンチ・ワンツーパーンチ